

カナダ 穀物

カナダ小麦局ニュースレター

2004年第4号

2004年度栽培状況の概説

2003年の秋から冬にかけての乾燥した天候のため、2004年度の播種に必要な土壌中の水分を十分確保することができませんでした。5月に雨を迎えるまでアルバータとサスカチュワン州の土壌の水分レベルは非常に低く、多くの地方で播種作業が遅れました。



5月から6月までの期間プレーリー東部で記録的な最低気温となりました。

穀物の播種はプレーリーで5月初めに始まり、西部の耕作地帯で最も急速に進められました。東部では低温と頻りに襲った霜のため、サスカチュワンとマニトバ耕作地帯の播種作業が遅れました。5月の第3週に全般的に降った雨と雪のため、播種作業があまり進みませんでした。発芽に必要な水分が得られました。冷たい気温と雨が東部地方で6月まで続き、一部の穀物と搾油種子の作付け作業が遅れました。一部のマニトバとサスカチュワン東部では雨がちの天候のため作付けされなかったのを除いて、播種作業は6月中旬に完了しました。

冷たく雨の多い天候はプレーリー東部で6月まで続き、作物の生長を遅らせる結果となりました。5月から6月までの期間プレーリー東部で記録的な最低気温となりました。プレーリー西部ではそれより暖かかったものの、平均を下回る気温がアルバータとサスカチュワン西部で続きました。

プレーリー東部では6月末の時点で、作物の生育が通常より2~3週間遅れましたが、西部では通常より1週間遅れただけとなりました。7月にはいって気温が高くなり、作物の生育は急速に進展しました。西部の耕作地帯では気温が最高となった一方、東部では気温は回復したものの7月の平均気温を下回りました。7月の降雨は大部分の地域で平年に近いもので、作物の生長を促し、平年以上の収穫量が期待できるものでした。しかし、8月の気温は再び平年以下に下がり、作物の成長がさらに遅れました。8月第3週の氷点下の気温で一部のサスカチュワンとマニトバ地方の未成熟な作物が損害を受けました。



8月下旬と9月に降り続いた雨のため収穫作業が遅れ、9月の第1週までに作物の5%が収穫されたのみに終わりました。収穫が遅れた場合の多くがそうであるように、雨が小麦と大麦の品質にいくらか被害を及ぼしました。収穫は10月の中旬までに完了する見通しとなっています。■

良いアイデア



小麦コンクリート

小麦からパンを焼くことができるのは誰でも知っています。でも、小麦で建設もできることをご存知でしたか？

例えば、建設に使うコンクリートパネル用の軽量原料など、小麦デンプンの潜在的な可能性について研究が行われています。

まず小麦デンプンと水を混ぜ合わせたものを熱して、型に流し込み、冷やしてジェル状にします。ジェルは透明で砕きやすい状態になるまで空気で乾燥させます。それを砂状に砕いて、水に数時間漬けた後、ゆすいで水切りします。

その結果、セメントと混ぜることができ、コンクリートミキサーに耐え得る強く弾性のある骨材ができます。

この新製品の使い道としては、屋根瓦、絶縁材、床材、防音・耐水性のある浴室建築用パネルなどが考えられます。

他にも軽量の骨材が市場に出っていますが、小麦デンプンを使った製品には、人手とエネルギーがあまりかからず、均一の密度を保った品質の高いコンクリートを作ることができるなどいくつか利点があります。

カナダ農家の穀物が 国際競技の主要材料

最近、カナダ国際穀物研究所 (CIGI) はカナダ産食材を使った料理コンテスト第4回CWB食パンコンテスト(日本で開催)の入賞者、およびボガサリ・グランド・エクスポ2003 CWB食パンコンテスト(インドネシアで開催)入賞者を迎えて、一週間にわたる製パンに関する研修プログラムを開催しました。

日本での競技会はCWB東京事務所のジェネラルマネージャー、デビッド岩浅の指揮のもと開催され、インドネシア競技会はボガサリ社によって企画開催されました。

入賞者は CIGI に招かれ、カナダ西部の小麦が様々なベーカリー製品に適していることを学ぶ研修会に出席しました。

私はこの貴重なカナダ旅行を忘れないでしょう。訪れた三つの都市はそれぞれ違った雰囲気を持つ印象的な都市でした。私たち参加者全員、この旅行と研修に忘れることのできない深い感銘を受けました。皆またいつかカナダを訪れたいと思っています。

ピートラス・ガンドゥアマノー (Petrus Gandamana)
ボガサリ製粉・インドネシア



入賞者はその他、CWB、カナダ穀物委員会、CIGI製パン麺類試験場、マニトバ州ウィニペグ市内の製パン工場などを訪問見学しました。研修会の第二部はアルバータ州カルガリーへ移動して行われました。ここでは、冷凍パン生地工場とベーカリー工場を見学しました。そして、カナダ最大の港湾都市のBC州バンクーバーでプログラムを終了しました。■

カナダ西部の風景

CWBの2004-05年度のカレンダーができました。今回はカナダのアマチュア写真家のレンズを通して見たカナダ・プレーリー地方の生活を特集しました。掲載写真は85名の写真家の「大草原の祝典」というテーマで撮った275枚を超える応募写真の中から選び抜かれました。

大賞に選ばれたマニトバの荒牛乗りの写真が、カレンダーの表紙を飾る栄誉を獲得しました。

コンテストは3名のプロ写真家によって審査されましたが、今年の入賞者を決めるに当たって、決定の難しさに直面しなければなりません。このカレンダーは農作物年度の初めから次のカレンダー年度の終わりまでのもので、17枚の写真を掲載しています。

海外のお客様のためにも、数に限定がありますがカレンダーをご用意しております。ご希望の方は、電子メールで、スーザン・コーブランド (Susan Copeland) までお申込みください：susan_copeland@cwbc.ca。■



カナダ小麦局を通して有機穀物の需要に応える

食品産業で今最も成長している部門は有機栽培食品です。有機栽培された農作物から加工された食品に関心を寄せる最終消費者が世界中で増えつつあります。この傾向はパン・麺類産業においても同様です。有機栽培の小麦とデュラムから作られた食品を求める最終消費者がどんどん多くなっています。

カナダ西部の農業生産者は有機小麦、デュラムと大麦の生産において世界の先端を行っており、高品質の有機穀物を求める加工業界の需要に応えることができます。

過去5年間、カナダ西部での有機作物の生産は飛躍的に伸びました。毎年、40,500ヘクタール以上で有機栽培がされています。西部カナダで従来栽培されてきた穀物類は全て有機認定されたものが作られています。カナダには1999年に初めて採用した連邦政府の「有機栽培国家規格」があります。このカナダの規格は日本、ヨーロッパ

連合、米国における有機栽培の規格に一致するよう制定されています。

また、カナダには有機農作物の認定をする45の団体があります。この様々な団体は州政府、カナダ規格評議会、または米国農務省の認証を得ています。農業生産者と穀物会社によっては、JAS規格に認定された穀物もあります。カナダの認定機関の概要についてはCWBにお問い合わせください。CWB有機農



ドナ・ヤングダール

作物マーケティング・マネージャー、ドナ・ヤングダール (Donna Youngdahl) が、お客様の有機農作物購入についてお手伝いいたします。必要な量と品質を見つけるお手伝いをしたり、有機穀物を専門に販売するカナダの会社情報の提供、および有機栽培についてのご質問にお答えします。

詳しい情報、またはカナダでの有機穀物の購入については下記にお問い合わせください：Donna Youngdahl, donna_youngdahl@cwb.ca (204) 983-3635。■



「有機栽培」とはどんなものですか？

ある穀物が有機穀物と認定された場合：

- その穀物は遺伝子組替作物ではない。
- 少なくとも2栽培期間中、その耕作地に化学肥料と除草剤を使用していない。
- その穀物は普通の穀物から隔離されている。
- その穀物の栽培地が分かっている。
- 生産者は環境にやさしく生態系に則した土壌を作る農法技術を採用している。



職員 動向



Erwin U. Que氏 (Phillipine Foremost Milling Corporation 副社長兼小麦部門ジェネラルマネージャー；左) は製粉に関する技術問題を話し合うため、ドン・ボナー (Don Bonner: CWBアジア太平洋担当マーケティングマネージャー；中央) およびマイル・スブラマニアン (Myl Subramaniam: CIGI製粉技術者) とマニラで会合した。



石海光 (Haiguang Shi: CWB北京ジェネラルマネージャー) は、2004年7月に開催されたCWB後援の第二回中国全国黄金像製パンコンテストで受賞を行った。



2004年5月、CWBとカナダ国際穀物研究所 (CIGI) 職員は、Pilmico Foods Corporation社と市場の展望と製粉・製パン技術について話し合う機会を持った。(左から右へ) ドン・ボナー (Don Bonner: CWBアジア太平洋担当マーケティングマネージャー)、Jose Antonio Aboitiz氏 (Pilmico Foods Corporation)。



2004年8月、インドネシアのジャカルタでボガサリ製粉とその顧客50社を対象としてCWB主催によるセミナーが開催された。

(後列、左より) Seno Mujinugroho氏 (ボガサリ・ミリング・テクノロジー課長)、グレアム・ウォーデン (Graham Worden: CWB・技術サービス・シニアマネージャー)、ゴード・カーソン (Gord Carson: CIGI穀物技術ディレクター)、ヘルマワン氏 (Hermawan: ジャカルタ、カナダ大使館商務官)。

(前列、左より) Dadang Suryawan氏 (ボガサリ・ミリング技術職員)、Ria Susanty氏 (ボガサリ・ラボラトリー・アンド・リサーチ課長)、Angela Mulyadi氏 (ボガサリ・ミリング訓練センター・マネージャー)、イボンヌ・スピーン (Yvonne Supeene: CIGIパン焼成技術者)、マイル・スブラマニアン (Myl Subramaniam: CIGI製粉技術者)、ゴードン・リチャードソン氏 (Gordon Richardson: シンガポール・カナダ高等弁務官事務所、ASEAN農業食品農業バイオテクノロジー地域カウンセラー)。



2004年5月マニラで、CWB職員はSan Miguel and Purefoods社社員と会見。

(左から右へ) Jose (Quito) Marcelo B. Blanco氏 (企業購買部危機管理担当)、ドン・ボナー (Don Bonner: CWBアジア太平洋担当マーケティングマネージャー)、Susan Y. Yu氏 (企業購買部購買マネージャー)、Ramon P. Javier氏 (小麦業務・工場長)、Lourdes (Bing) Corazon M. Cruz氏 (企業購買部ロジスティクス担当)、Emma B Laguio氏 (小麦業務・AVP研究開発長)、Antonina A. Sio氏 (小麦業務・研究開発担当)、マイル・スブラマニアン (Myl Subramaniam: CIGI製粉技術者)。



CWB幹部は中国穀物油糧食料輸入輸出公社 (COFCO) 代表者と北京本社で会見した。(左から右へ) Yu氏 (COFCO副社長)、ダレル・ブシュック (Darrell Bushuk: CWBシニア・マーケティングマネージャー)、エイドリアン・ミーズナー (Adrian Measner: CWB社長兼最高経営責任者)、Liu氏 (COFCO社長)。

『カナダ穀物』は、カナダ小麦局(CWB)発行の出版物です。カナダの穀物販売制度や、カナダ西部の小麦・大麦販売に影響を与えるCWBの試みやその他要因などを、アジア太平洋地域のパートナーにお知らせしています。

読者からの質問または意見は下記までお送りください。

Linda Deger, 編集担当, The Canadian Wheat Board, P.O. Box 816 Station Main, Winnipeg, Manitoba, Canada, R3C 2P5, 電話: (204) 983-8620, ファックス: (204) 983-4678, linda_deger@cwbc.ca